

調査報告書

〔2022年版ローラー系部品マーケット総覧〕

『共存共栄関係の構築を目指す 部品業界の総合分析』

＝技術力と信頼性に優れるサプライヤーが生き残る＝



< HPはトナーのみを補給するA4ローエンド機を発表し、在宅勤務ニーズに対応 >



< シャープの最新カラーMFPは新定着方式を採用 >



< コニカミノルタのA3カラープロダクションプリンタ「AccurioPress C7100」 >

2022年4月



日・中・米・欧の市場調査
株式会社 データ・サプライ

〈調査概要〉

I. 調査テーマ

『共存共栄関係の構築を目指す部品業界の総合分析』

＝技術力と信頼性に優れるサプライヤーが生き残る＝

II. 調査主旨

弊社の各種レポートで繰り返し述べてきた通り、事務機業界は変革の時を迎えている。複合機やプリンタの主要各社は、プリンティングビジネスの成長性が低下し成熟期を迎えていることをはっきりと認識しており、ITサービスやデジタルトランスフォーメーション（DX）といったサービス事業の拡大でこれを補おうとしているが、業界全体として新たなイノベーションを生み出すには至っておらず、各社が従来のプリンティングビジネスに頼る状況は変わっていない。むしろコロナ禍をきっかけに市場の成熟スピードは加速しており、企業の統合や事業撤退・売却がいつ起きてもおかしくない状況である。

事務機用ローラー／ベルトメーカーにおいても、正念場の状況が続いている。ローラー／ベルト市場には多くの日本メーカーが参入しており、これまで各社がしのぎを削って技術力・コスト力を高めてきたが、近年は全体需要の減少に加え、各部品のコモディティ化と中国の低価格部品メーカーの参入により価格引き下げ圧力が強まり、全体的に収益力の低下が進んでいる。また、コロナ影響による原材料価格の高騰も当然各社の業績を圧迫する要因となっている。さらに、コロナ禍からの回復という観点からみると、自動車やIT機器などの産業が半導体不足に苦しみながらも活況を呈し、アフターコロナでも高成長が見込まれるなか、プリンティング業界はコロナ終息後もかつての水準には戻らない可能性が高いとみられている。

ローラー／ベルトメーカーの中にはこのように成長性の見込めない同ビジネスに見切りをつけ、事業再編（具体的には事業売却や事業縮小）に着手するメーカーも出てきている。サプライヤーにとっては事業を継続していくだけの数量と利益の確保が必須であり、これが維持されないようであれば今後さらに再編の動きは進むだろう。複合機やプリンタの印刷機能そのものを支える機能性部品メーカーの再編は、単なる一企業の再編にとどまらず、業界全体の危機と捉える向きもある。そういった意味では、これまでのようなマシンメーカー側からの一方的な値下げ圧力は通じなくなってくる可能性も高く、技術力と信頼性に優れるサプライヤーとの共存共栄関係を構築できるような調達戦略が重要となってくる。

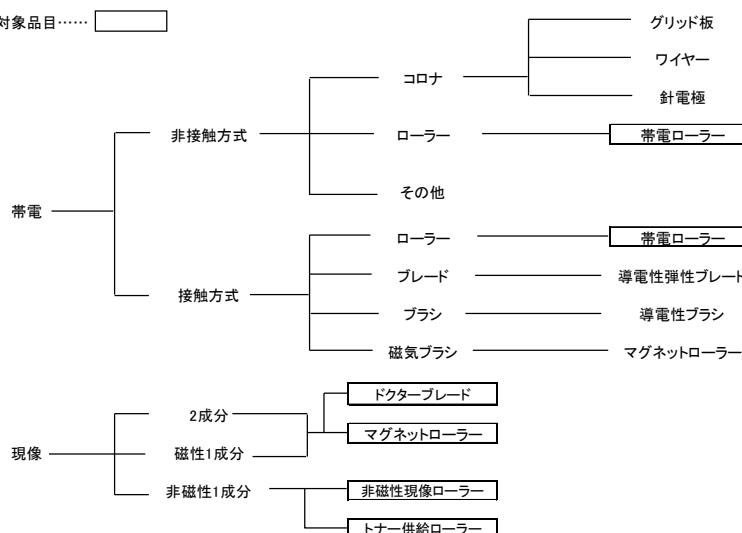
本レポートでは、帯電、現像、転写、定着、クリーニング、給紙・搬送といったプロセス部材別に国内外の専門メーカー、及び内製メーカーの現状と今後の戦略を調査・分析するものである。今回はローラー系部品マーケット総覧の17回目の刊行にあたりますが、一般的な見方にとらわれることなく、専門的・客観的見地から業界の将来動向を調査・分析してまいります。このレポートが業界関係者にとって今後の戦略立案の一助となることを願います。

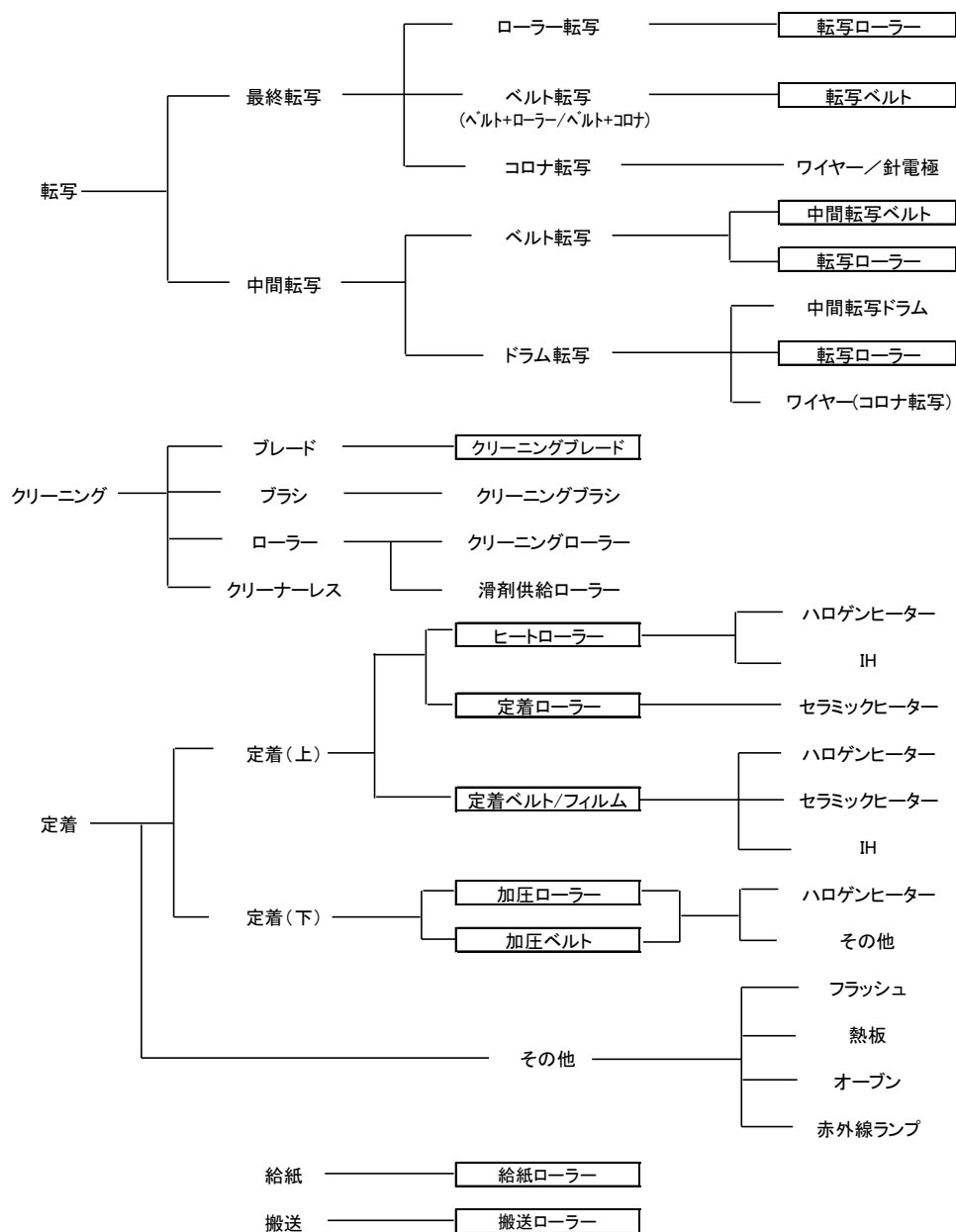
日系ローラー専門メーカー、中国・韓国系ローラーメーカー・内製メーカーを詳細分析

III. 調査対象品目と調査対象先

1. 調査対象品目

調査対象品目……





2. 調査対象先

- 2-1. ローラー専門メーカー：日本メーカー(32社)／韓国メーカー(9社)／中国メーカー(48社)／香港メーカー(1社)／台湾メーカー(2社)／その他(6社)／内製メーカー(6社) (合計 104社)
- 2-2. システムメーカー(主要 15社)：複写機メーカー／プリンタメーカー／FAX メーカー

IV. 調査範囲及び調査方法

- 1. 調査範囲：調査対象範囲は2019年～2025年とする。
- 2. 調査方法：1) 調査対象先メーカーへの直接訪問面接調査 (WEB 調査含む)
2) 公開されている文献、資料、統計などの分析及び調査
3) 弊社に蓄積されているデータの活用

V. 調査形態、調査期間、他

- 1. 調査形態：本調査はマルチクライアント方式による調査である。
- 2. 調査期間：2022年3月～4月
- 3. 調査報告書刊行日：2022年4月25日
- 4. 提出報告書：A4判製本+PDF
- 5. 価格：400,000円 (消費税別途)
- 6. 調査担当：山本 幸男／吉田 晃介／針生 正史
(TEL：03-3831-9201、FAX：03-3831-9204、ホームページ：http://www.datasupply.jp/
E-mail：yamamoto@datasupply.jp、yoshida@datasupply.jp、hariu@datasupply.jp)

《目次》

[調査結果の要旨]

A. 分析編

A-1. 機能性部品の全体市場動向 1

1. 日本メーカー/海外メーカー別出荷動向 (2019年~2025年)

2. プロセス別出荷本数・出荷金額 (2021年) 3. ローラーメーカーの出荷金額シェア (2021年)

A-2. 部品別市場動向 4

1. 出荷本数 (2019年~2025年) 2. 出荷金額 (2019年~2025年)

3. 用途別市場動向 (2021年/2025年) 4. サイズ別市場動向 (2021年/2025年)

5. 材料別市場動向 (2021年/2025年) 6. 部品別技術、材料動向

7. 価格動向、寿命 8. プロダクションプリンタと大判プリンタ用部材の出荷状況

9. 部品別メーカー別生産拠点 10. ローラー系部品の参入メーカー一覧

11. システム別使用部品点数

12. プロセス別メーカーの最新動向

12-1. メーカー別プロセス概要全体 12-2. プロセス別メーカー動向

12-3. 個別メーカー最新動向

キヤノン/リコー/富士フイルムビジネスイノベーション (旧富士ゼロックス) /コニカミノルタ/シャープ/東芝テック/京セラドキュメントソリューションズ/ブラザー工業/OKI/村田機械/HP Printing Korea/レックスマーク/Pantum/Lenovo/Deli

A-3. ハードウェアの出荷動向 35

1. ハードウェアの方式別出荷台数 (複写機/プリンタ) 35

2. 2021年のハードメーカー別方式別出荷台数 36

2-1. 複写機の出荷台数 2-2. レーザー/LEDプリンタの出荷台数

A-4. 中国及び東南アジア地域におけるシステムメーカー/部品メーカーの生産拠点 38

A-5. 主要セットメーカー別部品メーカー別供給一覧(2021年実績) 46

キヤノン/リコー/富士フイルムビジネスイノベーション (旧富士ゼロックス) /コニカミノルタ/シャープ/東芝テック/京セラドキュメントソリューションズ/ブラザー工業/OKI

B. 部品別市場編 61

形状図と材料、製造工程、使用本数/メーカー別市場動向、技術動向、価格、供給関係、工場

[1]帯電ローラー/[2]現像ローラー:[2]-1. 現像部合計/[2]-2. マグネットローラー/[2]-3. 非磁性現像ローラー/[3]トナー供給ローラー/[4]転写ローラー/[5]中間転写ベルト/[6]定着ローラー/ベルト:[6]-1. 定着部合計/[6]-2. 加圧部合計/[6]-3. ヒートローラー/[6]-4. 定着ベルト/[6]-5. 加圧ローラー/[6]-6. 加圧ベルト/[7]クリーニングブレード/[8]給紙ローラー/[9]搬送ローラー

C. 個別メーカー編 153

C-1. 国内専業メーカー (50音順) 153

<共通調査項目>ローラー系部品の売り上げ高(複写機・LBP向け/ATM向け/インクジェットプリンタ向け)/出荷本数・出荷金額 (2019年~2025年予測) /用途別サイズ別出荷本数・出荷金額 (2019年~2025年予測) /材料別出荷本数・出荷金額 (2019年~2025年予測) /技術及び材料の動向/価格動向・寿命/材料購入先/供給先一覧/国内外の生産拠点

[1]I.S.T/[2]荒井製作所/[3]イノアック/[4]NOK/シンジーテック/[5]カネカ/[6]錦城護謨/[7]金陽社/[8]グンゼ/[9]昭和電線ケーブルシステム/[10]信越ポリマー/[11]住友ゴム工業/[12]住友電気工業/[13]住友理工/[14]TDK/[15]東邦ゴム工業/[16]日星電気/[17]ニッタ化工品/[18]日東電工/[19]NEOMAXエンジニアリング/[20]バンドー化学/[21]日立金属/[22]フコク/[23]ブリヂストン/[24]明治ゴム化成/[25]ヤマウチ

C-2. 内製メーカー 354

[1]キヤノン/[2]リコー/[3]富士フイルムビジネスイノベーション (旧富士ゼロックス) /[4]コニカミノルタ/[5]東芝テック/[6]京セラドキュメントソリューションズ

C-3. 海外専業メーカー 366

[1] Ah-Sung Chemical (韓国) / [2] Foshan Ascend Precision Accessories (中国) / [3] Galaxia Device (韓国) / [4] Jahwa Electronics (韓国) / [5] Sang-A Frontec (韓国) / [6] Shenzhen Fancy Creation Industrial (中国) / [7] Shenzhen LEPUTAI Technology (中国) / [9] Taejin Precision (韓国)

C-4. その他メーカー 384

[1]日本メーカー/[2]海外メーカー

※実際のレポートには、数字やコメントが入っています。

分析編

1 2-3. 個別メーカー最新動向

[1] キヤノン

1) モノクロ機 (2022年4月現在)

	帯電	露光	現像	転写
A3複合機 (55~85ppm)	コナ	レーザー	磁性1成分	ペーパー(1)
A3複合機 (60~70ppm)	ローラー		2成分	ローラー
A3複合機 (25~45ppm)			磁性1成分	ローラー
A3複合機 (新興国向け)				
A4複合機				
プリンタ				

A3複合機の一部機種で2成分現像方式を採用している。

2) カラー機 (2022年4月現在)

	帯電
カラーPP (ミッドレンジ)	コナ
カラーPP (ハイレンジ)	ローラー
A3複合機 (37~60~70ppm)	
A3複合機 (37~35~60ppm)	
A3複合機 (37~20~30ppm)	
A4複合機	
プリンタ (A4/A3の大半の機種)	
プリンタ (A4 37~24~27ppm)	

中間転写ベルト基材は、PI、P
定着フィルム基材はPI、SUS、

分析編

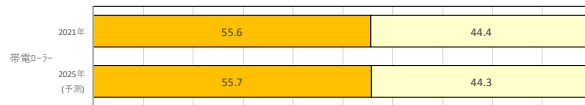
3. 用途別市場動向(2021年/2025年)

※出荷本数割合

※調査対象のあるメーカー分の合計

カラー モノクロ

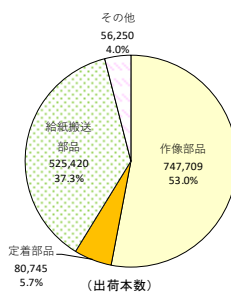
単位: %



分析編

2. プロセス別出荷本数・出荷金額(2021年)

	部品名	出荷本数 (千本)	構成比 (%)	対前年比 (%)	出荷金額 (百万円)	構成比 (%)	対前年比 (%)	
作像部品	帯電ローラー							
	マグネットローラー							
	非磁性現像ローラー							
	トナー供給ローラー							
	転写ローラー							
	中間転写ベルト							
	クリーニングブレード							
	小計							
	定着部品	ヒートローラー						
		定着ベルト						
加圧ローラー								
加圧ベルト								
小計								
給紙搬送部品	給紙ローラー							
	搬送ローラー							
小計								
その他								
総合計								



機能性部品のプロセス別構成比率(2021年実績)で全体の53.0%、出荷金額で62.8%。画像・出荷金額で20.0%を占める。紙を給紙・搬送するで10.3%となっている。

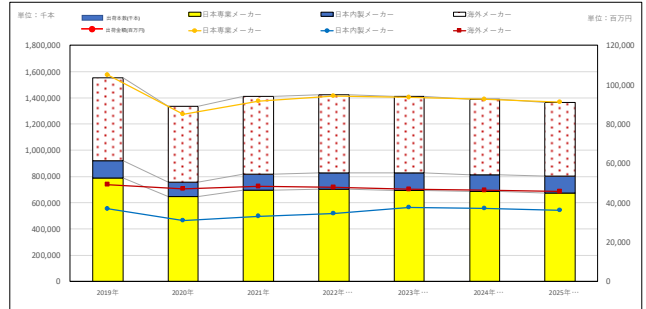
分析編

A. 分析編

A-1. 機能性部品の全体市場動向

1. 日本メーカー/海外メーカー別出荷動向(2019年~2025年)

		2019年		2020年		2021年		2022年(見込)		2023年(予測)		2024年(予測)		2025年(予測)	
		本数	%	本数	%	本数	%	本数	%	本数	%	本数	%	本数	%
出荷本数(千本)	専業メーカー	790,183	50.9	646,654	48.5	696,399	49.4	703,882	49.1	694,199	49.2	684,294	49.3	674,323	49.4
	内製メーカー	130,555	8.4	109,042	8.2	118,070	8.4	125,420	8.7	132,520	9.4	130,135	9.4	127,570	9.3
	対前年比	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	日本メーカー合計	921,138	59.4	755,696	56.6	814,469	57.8	829,302	58.1	826,719	58.6	814,429	58.7	801,893	58.7
	対前年比	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	海外メーカー合計	630,085	40.6	578,471	41.4	594,053	42.2	597,094	41.9	585,078	41.4	573,638	41.3	563,242	41.3
対前年比	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計	1,551,223	100.0	1,334,167	100.0	1,410,124	100.0	1,426,496	100.0	1,411,797	100.0	1,388,167	100.0	1,365,135	100.0	
対前年比	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
出荷金額(百万円)	専業メーカー	104,505	54.9	85,008	52.1	91,609	53.0	94,268	53.4	93,536	52.5	92,533	52.6	91,096	52.7
	内製メーカー	36,915	19.3	30,985	19.0	33,180	19.2	34,590	19.6	37,754	21.2	37,089	21.1	36,300	20.9
	対前年比	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	日本メーカー合計	141,830	74.2	115,993	71.1	124,789	72.1	128,858	72.9	131,310	73.7	129,613	73.7	127,296	73.6
	対前年比	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	海外メーカー合計	69,230	25.8	67,045	28.9	69,267	27.9	67,839	27.1	66,335	26.3	66,303	26.3	65,617	26.4
対前年比	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計	191,060	100.0	182,038	100.0	172,996	100.0	176,698	100.0	177,215	100.0	175,216	100.0	172,913	100.0	
対前年比	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	



2021年における機能性部品の合計出荷本数は対前年比105.7%の1,410,124千本、出荷金額は同106.1%の1,729億9,600万円。日本メーカーと海外メーカーの比率は、出荷本数ベースでは前者が全体の57.8%(専業メーカー:49.4%、内製メーカー:8.4%)、後者が同42.2%、出荷金額ベースでは前者が72.1%(専業メーカー:53.0%、内製メーカー:19.2%)、後者が27.9%となった。

同年は新型コロナウイルスの影響を受け大幅減となった前年からの反動増が各品目で見られたが、半導体をはじめとする部材不足により本体の生産活動が停滞したことで、伸び率は想定より緩やかなものとなった。2022年以降は在宅勤務向け需要の拡大などで大幅増の期待もあるが、部材不足が依然として続いていることでMFPやプリンタ市場そのものの厳しい見通しが強まる中で、その伸び率は緩やかになっていくことも想定され、コロナ前の水準には当面戻ることは厳しいとの予測である。

複写機・プリンタ市場の成熟スピードが加速するなかで、部品メーカーにおいては事業再編(具体的には事業売却や事業縮小)の動きが活発化している。すでに複数のメーカーが同市場から撤退しており、今後同様の動きは続く見通しである。事業を継続するメーカーにおいては採算性重視の姿勢が顕明となっており、マシンメーカー側からの一方的な値下げ圧力は弱まらなくなる可能性は高く、技術力と信頼性に優れるサプライヤーとの共存共栄関係を構築できるような調達戦略が重要となってくる。

※本年版レポートより出荷本数・出荷金額の調査対象として「その他」(クリーニングローラー、ドライブローラー、ブラシ類、パッド類、他)を追加しました。このため、総合計の数値が前年レポートと異なっておりますのでご了承ください。

株式会社データ・サプライ刊行物案内／申込書

（ 刊行日・価格の
変更があります ）

住所：〒110-0005 東京都台東区上野6-6-1 舶来堂ビル5F
 TEL：03(3831)9201、FAX：03(3831)9204
 E-mail：yamamoto@datasupply.jp、yoshida@datasupply.jp、hariu@datasupply.jp
 ホームページ：http://www.datasupply.jp/

- 以下の枠内にご記入いただき、下表のご希望の調査資料に希望部数、金額をご記入ください。最短で翌日（部数、地域による）に到着するように発送いたします。
- 申込はメール、FAX、郵送のいずれでも可能です。申込と同時に現物と請求書を発送させていただきます。尚、発刊日前の申込につきましては、申込時に半金の請求をし、発刊日に残金（現物とも）の請求をさせていただきます。

申し込み日 2022年 月 日

御社名

御住所 〒

御電話番号

御担当部署

御担当者

	日本語版		英語版		部数	金額
	価格 (消費税別)	刊行日	価格 (消費税別)	刊行日		
《 定期刊行物 》						
* 「月刊電子写真総合情報」 一電子写真に関する総合的なレポート（1986年～） 年間1,200～1,300頁	年会費：¥700,000 月会費：¥60,000	毎月 20日	\$7,000 \$600	毎月末	日 英	年 月号より ヶ月/年
i4inkjet [Directions] (年6回発行、年300頁～) ※インクジェット関連の特許技術レポート	—	—	¥550,000～	2021年 7/27～	英	
《 2022年刊行予定物 》						
* 2022年版[感光体マーケット総覧] 『基幹部品としての重要度を堅持する感光体市場の展望』	¥500,000	2/25	\$5,200	4/20	日 英	
* 2022年版[ローラー系部品マーケット総覧] 『共存共栄関係の構築を目指す部品業界の総合分析』	¥400,000	4/25	\$5,000	注文対応	日 英	
* 2022年版[トナーマーケット総覧]	¥600,000	6/下予定	\$6,000	8/下予定	日 英	
* 2022年版[インクジェット印刷マーケット総覧]	¥500,000	10/下予定	\$5,000	12/中予定	日 英	
* 2022年版[MFPマーケット総覧] (フルレポート) 総合分析編・PPC市場編/プリンタ・プロダクションプリンタ市場編	¥600,000 各¥350,000	12/下予定	— —	—		
《 2021年刊行物 》						
* 2021年版[感光体マーケット総覧] (286頁) 『戦略転換が求められる感光体業界の試練』	¥500,000	2/25	\$5,200	4/26	日 英	
新レポート * 2021年版『出力機器関連機材ハンドブック』(282頁)	¥200,000	3/24	—	—		
* 2021年版[ローラー系部品マーケット総覧] (630頁) 『コストと品質が命綱となったローラー系部品業界の未来』	¥400,000	4/22	—	—		
* 2021年版[トナーマーケット総覧] (572頁) 『働き方の多様化で変化が加速するトナー市場の最新動向』	¥600,000	6/25	\$6,000	8/24	日 英	
* 2021年版[インクジェット印刷マーケット総覧] (377頁) 『新たなイノベーション創出を目指す 産業用インクジェット業界の最新動向』	¥500,000	10/26	\$5,000	12/10	日 英	
* 2021年版[MFPマーケット総覧] (フルレポート) (640頁) 『業界変革期を迎えた複合機・プリンタ市場の将来性分析』 総合分析編・PPC市場編/プリンタ・プロダクションプリンタ市場編	¥600,000 各¥350,000	12/22	— —	—		
《 その他の刊行物 》						
* 2014年版[企業便覧シリーズ] (128頁) 『中国の機能性部品ローカル企業100社便覧』	¥150,000	2014年 9/29	\$1,500	2014年 10/31	日 英	
* 2013年版[オフィスユーザー調査] 分析編(810頁)、写真データ(535頁) 『インドにおける500社の複写機・LBP等の写真付ユーザー実態調査』	¥800,000	2013年 9/25	—	—		